

# 私のプロジェクト X

仁田 智

## はじめに

このたびは、私のプロジェクト X への執筆の機会を頂きまして、大変ありがとうございます。

毎号掲載されている大先輩の皆様の経験豊かな内容と比べますと、私のプロジェクト X はまだまだ道半ばでお恥ずかしい限りですが、貴重な機会を頂きましたので、私の半生を書かせて頂くことにしました。

## 1. 私の生い立ち

私は 1976 年(昭和 51 年)に道北の名寄市で生まれ、父の仕事の関係で北海道内の街を 2～3 年おきに移り住む、いわゆる転勤族の家庭で育ちました。入学した学校を卒業した経験が無く、いつも「転校生の仁田くん」と呼ばれていたような気がします。かすかな記憶では、高校は工業高校に行きたいと思っていたのですが、転勤に伴う編入のしやすさから普通科の高校に進むことになりました。そんな幼少～学生時代を経験したのち、やや無謀にも、高校を卒業後すぐに社会に出る道を選びました。

今思うと、転校を繰り返していたお陰なのか、知らない人たちが集まる場所に出ていくことは、あまり苦にならない性格です。少し残念なことは、幼いころからの友人・幼馴染と言える人がいないことです。

## 2. 高卒で測量会社に就職

父が技術系の仕事であったことにシッカリと影響を受け、高校を卒業後、測量会社に就職し、社会人としてのスタートを切りました。当時の会社は、理系の学校を卒業していない私をよく雇ってくれたと思います。また、社会に出たばかりで常識の身にっていない若者を根気よく育てて頂き、当時の会社の皆さんには本当に感謝しております。

ただ、測量や土木に関する知識を全く持たないままに就職をしましたので、日々、猛烈に勉強が必要

だったのは言うまでもありませんが、測量士の資格取得の面でも、専門学校卒のようなアドバンテージが無いので、就職して間もなく、資格取得の難しさを思い知らされることになりました。



写真-1 就職したばかりの頃の現場にて

## 3. 工事測量や施工管理の仕事に従事

就職後に従事してきた仕事の多くは、一般的な公共測量のほか、工事測量や施工管理を補助する仕事でした。特に思い出があるのは、道北の高規格道路の施工現場で、20 代前半の頃の夏期は、ほとんどこの現場で過ごしていたような気がします。

私は、土木の知識を持つことなく社会に出ましたが、これらの現場で間近に見てきた大規模な土工や軟弱地盤対策、橋梁や BOX カルバートなどの構造物の施工現場は、後に受験する技術士第 1 次試験の合格を助けてくれる良い経験となりました。

## 4. 宅地造成などの開発行為の仕事に従事

その後、宅地造成などの開発行為に携わる機会が増えました。自分で街区や道路の計画を行い、水道や下水道の計画を行うなど、関係官庁や施工主体との協議も含めて、とてもやりがいのある仕事でした。これらの仕事を通して、浅く広くではありますが、設計の基本の多くを学ぶことができました。



写真-2 私が開発行為に携わった街区

## 5. 雪に関わる仕事との出会い

20代も後半に差し掛かってきた頃、「道路の周りの積雪深を測ってほしい」という、謎の依頼を受けました。これが、現在携わっている雪に関わる仕事との出会いでした。当時は、雪の深さを計測して何に使うのか、何のためになるのか、さっぱり意味が分かりませんでした。いくつかの雪に関わる仕事の依頼を受けているうちに、土木の世界にこのような仕事があることを知り、いままで考えて見ることもなかった仕事に、面白さを感じるようになってきました。

## 6. 測量士の資格試験に合格

その頃、ずいぶんと時間が掛かってしまいましたが、測量士の資格試験に、やっと合格しました。就職したばかりの頃に「自力で合格するのは難しいから、社長に頼んで専門学校に行かせてもらったほうが良い」という先輩の言葉を何とか覆し、夢のひとつを達成した瞬間でした。

## 7. 雪を専門とする建設コンサルタントに転職

30歳を過ぎた頃、雪に関わる仕事ですっかり楽しくなっていた私は、現在の会社に転職をしました。私を一人前の社会人に育ててくれた最初の会社の皆さんには返しきれないほどの恩がありましたが、私のわがままを受け入れて頂き、辞める人間の送別会まで開いて送り出してくれました。

転職した年にタイミング良く技術士第1次試験に合格することができて、すぐに技術士補の登録をしました。

## 8. 技術士第2次試験への挑戦

中途採用で、しかも、測量士以外の資格を持たずに建設コンサルタントに転職をした私は、この世界で生きていくためには、技術士の資格がどうしても必要だと感じていました。会社も受験講座に通わせてくれるなど、援助してくれました。朝早めに起きて勉強、終業後にも勉強する習慣を付け、時間をうまく使うように心掛けて、なんとか2回目の受験で2次試験に合格することができました。この時、30代半ばに差し掛かった頃で、娘を授かったばかりの年で嬉しいことが重なり、夢をまたひとつ、かなえることができました。当時、論文の添削をして頂くなど、受験のサポートをしてくださった先輩技術士の皆様には、心より感謝しております。

また、口頭試験では人生で一番の緊張を味わい、受験終了後に胃がとっても痛くなって会場のロビーでしばらく動けなかったことや、3月の合格発表の日には、これまでの人生のなかで一番たくさん「おめでとう」の言葉を頂いた一日となり、良い思い出として記憶に残っています。

## 9. 青年技術士交流委員会の幹事に

技術士の資格を取得することができたら、ぜひ活動の幅を広げていきたいと思っていました。会社には青年技術士交流委員会(以降、青技交)の幹事の先輩がいましたので、お願いして委員会に連れて行ってもらい、私も幹事となりました。ここで知り合った皆さんはとってもパワフルで、そして知的で、やりたいことや夢がたくさんあって、参加するたびに刺激を受けることばかりでした。幹事になって最初のイベントは「苫東火力発電所と巨大クレーンの見学会」でした。参加して早々にイベントの担当幹事を任せてもらうなど、このイベントはとても良く記憶に残っています。

また、青技交以外にもいくつかの会に参加させて頂く機会に恵まれ、たくさんの皆様にお世話になっております。技術士受験の際にお世話になったことへの恩送りも忘れずに、これからもたくさんの皆様との繋がりを大事に生きていきます。

## 10. 青技交の委員長、北海道本部の幹事に

青技交に参加した次の期には、副委員長に推して頂き、その次の期には、なんと、委員長に推して頂きました。現在(2018年)、委員長を務めて4年目となりました。その間、たくさんの仲間との出会いがあり、たくさんのイベントを皆で作り上げ、たくさんの良い経験を積むことができました。現役の50名を超える幹事の仲間たちと、これまでに卒業していった先輩の皆さんとの繋がりは、私にとって、とっても大きな財産になっています。

また、現在、北海道本部の幹事も任せて頂いており、大変光栄に思っております。これからも、技術士会の発展に少しでも寄与できるよう、努力していく所存です。

## 11. 青技交の記憶に残るイベントの数々

記憶に残っているイベントは数え切れないくらいあるのですが、特に記憶に残っているのは、札幌で開催された2013年(平成25年)の技術士全国大会の青年イベントです。私はテクニカルツアーを担当しましたが、とにかく準備が大変だったということと、全国の皆さんを迎えてのイベント実行の大変さと楽しさと、とにかく記憶に残るイベントでした。私は、この大会が全国デビューでしたので、以降の全国の青年技術士の皆さんとの交流の始まりにもなりました。

また、実現することができて嬉しかったことのひとつに、技術士の知名度向上に繋がればとの思いで作成した「技術士ノート」があります。実は、素案は私がWSで描いたものだったのですが、これを委員会の仲間が見事に形にしてくれました。このノートの各ページに描かれている4コマ漫画は、技術士全国大会の青年イベントで全国の青年技術士がWS形式にて素案を作り、その後、主催本部の九州本部の皆さんが取りまとめてくれたものです。改良を重ねて、現在は第2版が活用されています。



図-1 技術士ノート 第2版

もうひとつ、とても印象に残っているイベントを紹介します。青技交では毎年、公開型の講演会を開催しており、一般市民の皆さんが行き交うパブリックスペースで、北国ならではの技術や、それに関わる技術士・技術者にスポットを当てたイベントを企画しています。昨年(2017年)の「札幌の道のはじまり～街の発展と道づくり」と題した公開講演会では、一般市民の皆さんを中心に約150名もの参加があり、大盛況のイベントとなるとともに、とても記憶に残るイベントになりました。



写真-3 2017年の公開講演会の実施状況

## 12. 技術者のミライ研究委員会の設立

青技交の活動が盛況になるとともに、試行してきた、理系学生に技術士資格と私たちの仕事内容を紹介する「技術士を知ろう」企画の実施校は大きく拡大しました。ひとつの事業として軌道に乗ったため、これらを所管する「技術者のミライ研究委員会」が2017年(平成29年)に立ち上がりました。新しい委員会の設立に関わることができたのは、とても嬉しく、とても記憶に残る出来事となりました。



写真-4 「技術士を知ろう」の実施状況

### 13. 現在の仕事と私のミライ

一口に雪に関わる仕事と言いましても、実はいろいろな仕事がありまして、私の所属する部署では、関係官庁から発注される、道路の吹雪対策・雪崩対策に関する調査や設計、道路構造物への冠雪・着雪現象に関する調査や設計などを主に行っています。



写真-5 私が吹雪対策に携わった現場



写真-6 私が雪崩対策に携わった現場

技術士の資格を取得して以降、管理技術者として携わる仕事の数は年々増え、これまでに北海道開発局より、局長賞・部長賞を頂く機会にも恵まれました。良いものを作り上げようと一緒に仕事をしてくださった発注機関の皆様と、良い仕事でサポートしてくれた社内の皆さんのお陰と感謝しております。

私は、現在 42 歳(執筆した 2018 年時点)となりました。今の会社に転職して 10 年程が経過し、昨年より、所属部署の部長を務めております。現役生活はまだまだ続きますが、現役を引退する際には「雪のコンサルタントに「仁田さん」という人がいたね」と覚えておいてもらえるように、この世界にしっかりと足跡を残していきたいと思っています。

#### おわりに

今回、本稿への執筆の機会を頂き、社会に出てからの約 24 年間で振り返ってみる良い機会となりました。過去の気持ちを思い出すうちに「これからもシッカリと頑張っていこう」との思いを新たにしました。私のプロジェクト X は、まだまだ道半ばですが、これからの自分が、今の自分がビックリするようなことを成し遂げるのを期待して、これからも努力していく所存です。皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

最後にひとつだけわがままを言いますが、できましたら、私が現役を引退する頃に、私のプロジェクト X が完成した頃に、もう一度だけ執筆の機会を頂けますと嬉しく思います。

このたびは、大変貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。

仁 田 智 (にた さとし)

技術士(建設/総合技術監理部門)  
測量士

日本技術士会北海道本部 幹事  
青年技術士交流委員会 委員長  
技術者のミライ研究委員会 幹事  
(株)雪研スノーイーターズ 調査設計部長

